

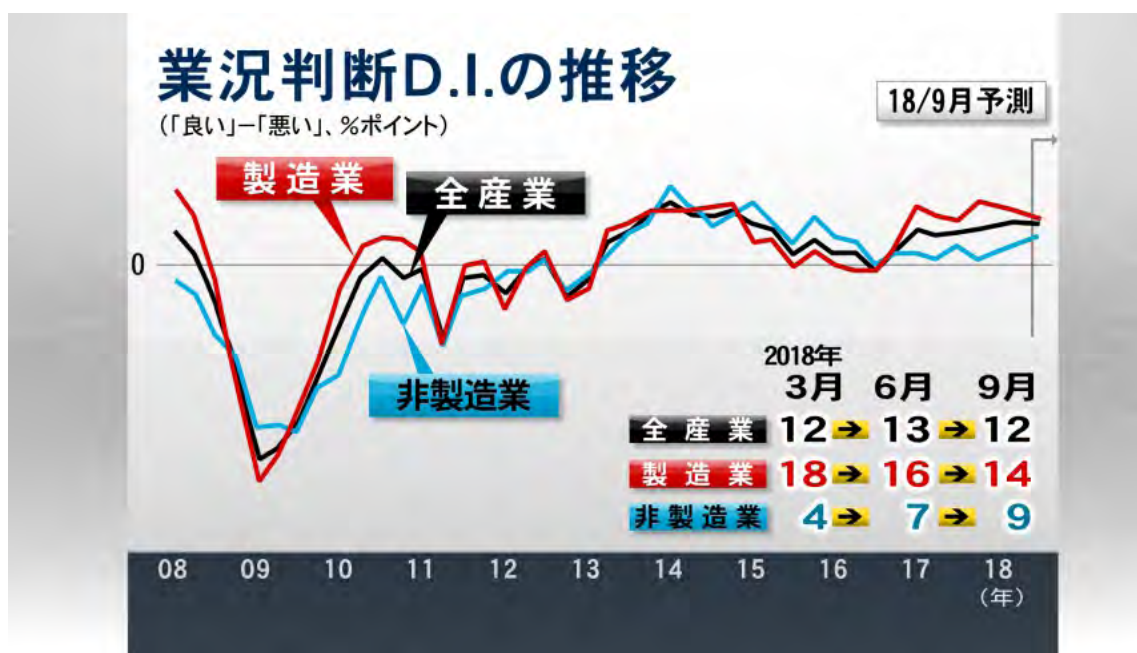
[番組名]群馬テレビ「ビジネスジャーナル」

[放送日]2018年7月13日

[テーマ]日銀短観でみる県内経済の足取り

(キャスター) 毎回、コメンテータの方に専門分野のお話をうかがう『プラスオピニオン』です。改めてご紹介します。日本銀行前橋支店長の岡山和裕さんです。よろしくお祈りします。今回は、『日銀短観でみる県内経済の足取り』というテーマでお話をうかがっていきます。お祈りします。

(岡山支店長) よろしくお祈りします。日本銀行では、7月2日に「企業短期経済観測調査」——いわゆる日銀短観——を公表しました。本日は日銀短観から読み取れる、県内経済の足取りについてご説明したいと思います。まずは業況判断D.I.の推移をご覧ください。



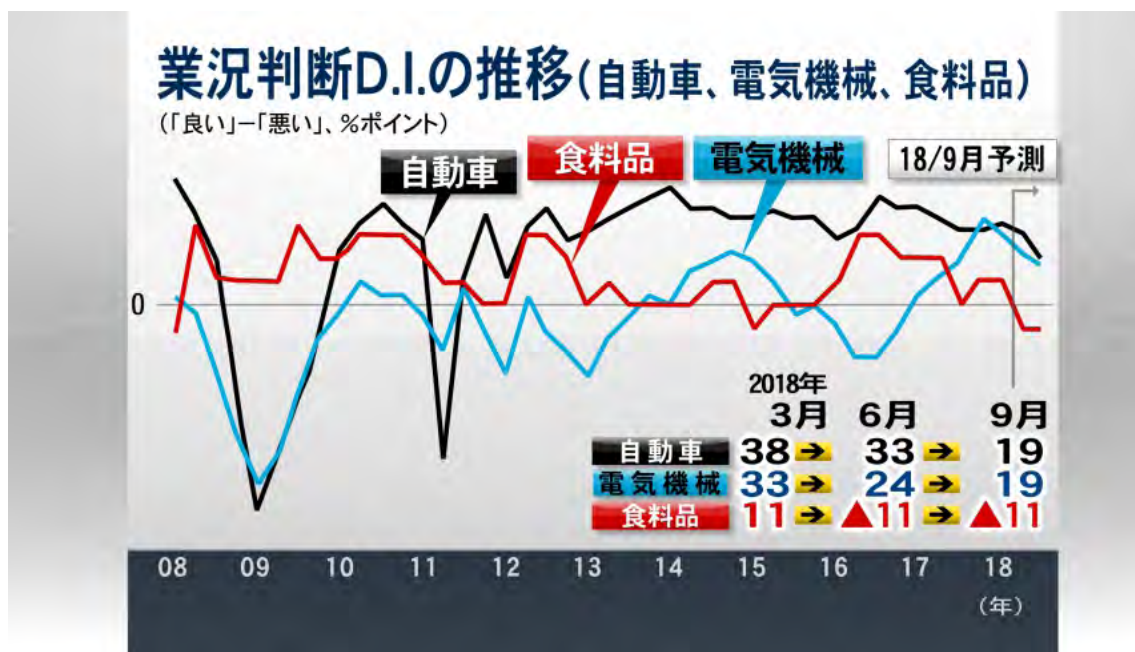
(岡山支店長) 業況判断D.I.は、景気が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた値です。「良い」と答えた企業が「悪い」と答えた企業よりも多ければ数値はプラス、少なければマイナスとなります。

群馬県の全産業の業況判断D.I.は、前回プラス12から1ポイント改善し、今回調査ではプラス13となりました。昨年の9月調査以降、4回連続の改善となり、県内景気の回復が続いていることを示しています。

(岡山支店長) 業況判断 D.I. を製造業と非製造業に分けてみると、製造業は、前回プラス 18 から 2 ポイント悪化し、今回調査ではプラス 16 となりました。先行きについては、14 ポイントと、さらに 2 ポイント悪化する見通しとなっています。一方、非製造業は、前回プラス 4 から 3 ポイント改善し、今回調査ではプラス 7 となりました。先行きについては、9 ポイントと、さらに 2 ポイント改善する見通しとなっています。足もとの全産業の景況感の改善には、非製造業が寄与した形です。

(キャスター) 製造業の業況悪化の背景は、どのようなことが影響しているのでしょうか。

(岡山支店長) 次のフリップで、群馬県の製造業のいくつかの業種の D.I. をみていきましょう。



(岡山支店長) 6月調査では、自動車、電気機械、食料品の業況判断 D.I. が悪化しました。自動車においては、生産が計画を下回っているほか、先行きも不透明感が聞かれるところです。電気機械においては、中国向けスマホ需要の一巡により受注の減少が見込まれています。また、食料品においては、競争激化による採算悪化や販売減少を指摘する声が聞かれています。こうした状況を踏まえ、自動車、電気機械については、先行き 2018 年 9 月についても業況が悪化する見通しとなっています。

(キャスター) 一方で、非製造業の業況改善の背景は、どのようなことが影響しているのでしょうか。



(岡山支店長) 非製造業については、足もと、先行きともに改善しています。足許では、運輸、電気・ガス、対個人サービスが改善しており、物流の増加や、好調な観光動向が好影響を与えています。また、先行きについては、卸小売や対事業所サービスなどが改善しています。小売では、新車投入効果、テレビの買い替え需要が堅調であるほか、オリンピック需要や建材の取扱いが増える見込みであるといった声が聞かれています。

(キャスター) 県内企業の売上や収益の計画は、どのようになっていますか。

売上高・収益計画

前年度比、%

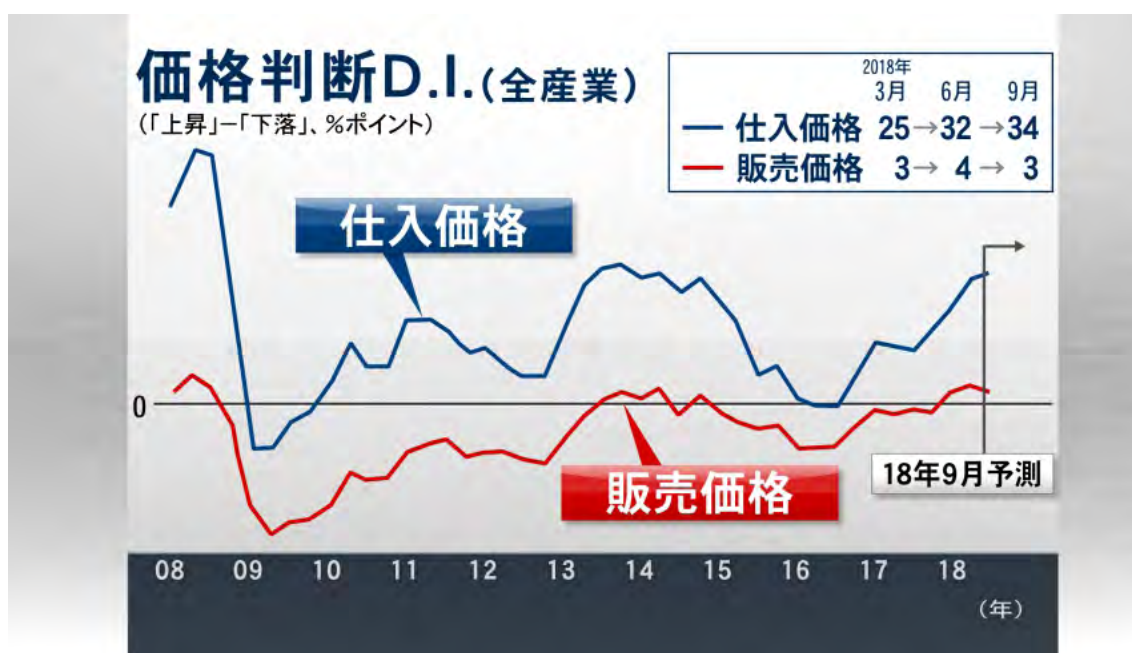
	2017 年度 実績	前回調査比 修正率	2018 年度 計画	前回調査比 修正率
	売上高 (全産業)	2.3	0.0	1.4
経常利益 (全産業)	▲3.0	▲10.3	20.5	11.7

(岡山支店長) 事業計画をみますと、2017年度は増収減益、2018年度は増収増益となっています。

2017年度は、北米向け輸出が好調な自動車あるいは電気機械、化学などが好調でした。また、小売、建設、不動産などでも増収となりましたが、小売における利幅縮小などから減益となりました。

一方、2018年度は、小売が底堅いほか、運輸などが、コスト上昇を輸送価格に転嫁を進めていることなどから、増収増益計画となっています。

(キャスター) 企業が仕入価格、販売価格をどのようにみていますか。



(岡山支店長) 企業の価格判断D.I.はプラスになっていますが、これは、「下落」と答えた企業よりも「上昇」と答えた企業の方が多いということです。仕入価格のD.I.は足もと、先行きとも上昇超幅が拡大しましたが、販売価格は小幅上昇に止まっております。

仕入価格については、景気が回復していることを受けて、人件費や資材価格、物流コストの上昇を指摘する声が聞かれています。

一方、販売価格については、価格競争力のある商品やサービスを提供している企業は仕入価格の上昇を販売価格に転嫁できていますが、そうでない先は他社との競合が厳しい中で価格転嫁が難しい状況が窺えます。

(キャスター) 設備投資の計画については、いかがでしょう。

		前年度比、%			
		2017年度実績	前回調査比修正率	2018年度計画	前回調査比修正率
全産業	▲2.6	0.4	6.6	4.8	
	▲1.1	0.6	5.6	2.8	
	▲8.8	▲0.8	11.0	13.5	

(岡山支店長) 県内企業の設備投資計画をみますと、製造業、非製造業ともに2017年度は減少となっておりますが、2018年度は前年比増加する計画となっております。+6.6%と高い伸びとなっております。また、前回調査との比較では上方修正されていることも特徴です。

このように、2018年度の設備投資は、最近の景気回復を受けて、能増投資、省力化投資、合理化投資に積極的となっています。

(キャスター) 人手不足感は、やはり強まっているのでしょうか。

雇用人員判断D.I.

(「過剰」-「不足」、%ポイント)



新卒採用計画

前年度比、%

	2017年度実績	前回調査比修正率	2018年度計画	前回調査比修正率	2019年度計画
	全産業	2.2	▲1.1	7.7	▲1.7
製造業	3.2	0.3	2.6	▲1.7	8.1
非製造業	0.6	▲3.2	16.3	▲1.8	▲3.8

(岡山支店長) まずは、次のフリップをご覧ください。

雇用人員判断D.I.は、マイナスになっておりますがこれは、「不足」と答えた企業が「過剰」と答える企業よりも多いことを表しております。

今回調査では、製造業、非製造業とも不足の度合いは若干縮小しましたが、引き続き大きなマイナスとなっているほか、先行きについては不足超幅が拡大する見通しで、人手不足感が非常に強いという状況です。

こうした中で、新卒採用の計画についてですが、2017年度は前年を上回る実績となったほか、2018年度も+7.7%と高い伸びになっています。足下の強い需要に対応するために、企業の採用スタンスが積極的であることを表しています。

(キャスター) 最後になりますが、今回の短観結果のポイントを教えてください。

(岡山支店長) 要約すると、次の3点です。①景況感は4期連続で改善しており、水準も高いということです。このため、群馬県経済は回復している状況です。②一方で、仕入価格は上昇していますが、販売価格に転嫁できない先も多い模様であります。そうしますと、収益が悪化する要因になりますので、販売価格への転嫁がどこまで進むかがポイントです。③設備投資は順調であり、設備投資が進みますと、労働生産性が向上します。設備投資がどの程度実現するのかみていきたいと思います。

(キャスター) 今後の県内経済の動きに注目です。

今回の「プラスオピニオン」は「日銀短観でみる県内経済の足取り」をテーマに、日本銀行前橋支店長の岡山和裕さんに、お話をうかがいました。ありがとうございます。

以 上